

多様性をどのように捉えるか。子どもたちの価値観も多様になっています。そんな時代に、私たちは、教職員として、どのように子どもに向かっていけばよいのか。そのヒントを武田双雲氏の話からたくさん頂き、考え直すことができました。多様な子どもを目の前にし、自分たちは、もっと彼らの理解につとめ、受容することが求められているのだと感じました。目指す学級経営や授業などの理想をもち始めた私のような若手教員にとって、今一度子どもに目を向け直す必要があるのだと思いを新たにする講演でした。「その瞬間に、何を見て、どう感じて、どう動くか」新学期、子どもたちに会うのが待ち遠しくなりました。